

Vol. **33**

〈発行日〉  
令和6年3月25日

# 松下ゆきよし

# 県政活動レポート

発行責任者／愛媛県議会議員 松下行吉 連絡先／〒791-2141 伊予郡砥部町岩谷口135 TEL (089) 969-3605



▲とべ動物園のジップライン乗り場からこどもの城を臨む。写真の右端には、こどもの城からジップラインで降りて来る人の姿があります。

## とべもり+（プラス）

砥部町と松山市にまたがって、えひめこどもの城、とべ動物園、県総合運動公園があります。三施設は通谷池を挟んで隣接し、合わせて100ヘクタールを超える四国屈指のレジャー・スポーツゾーンとなっています。愛媛県では、この三施設に伊予市にある「えひめ森林公園」を加えて「とべもり+（プラス）」と呼んで魅力をアピールしています。

令和3年には、こどもの城と動物園をつなぐ全長730メートルのジップラインがオープン。エリア交流拡大推進事業を展開するとともに、6年度から脱炭素先進地域を目指して「ゼロカーボン夢プロジェクト」に着手します。将来的には「とべもり+（プラス）」内の二酸化炭素排出量をゼロにする目標で、環境教育の場としても重要となっています。

また、総合運動公園は、令和7年開催の日本スポーツマスターズ大会の主要会場です。加えて、令和8年に開催される全国植樹祭の主会場に決定しており、施設の整備が進んでいます。

# 愛媛県議会定例会（2024年2月）の概要

2月定例県議会は、3月19日に27

日間の会期を終えました。2月議会は一般会計、特別会計、企業会計の当初予算案を中心に、次年度の方角を決める議会となります。また、愛媛県議会では、申し合わせによる正副議長の交代が行われる慣例となっています。常任委員会も新しい体制となりました。

可決議案は予算26、条例29、規則1、人事2、意見書2、その他11です。なお、伊方3号機の運転停止と廃炉を求めるなどの請願3件を不採択としています。

## 1 当初予算

令和6年度当初予算は、一般会計が7,283億円（対前年度283億円（対前年度213億7,000万円増）で、中村県政最大となった昨年度をさらに上回る積極的



な予算です。

施策の柱である人口減少対策や、DX推進には前年度と同程度の予算を組んでいます。地域経済の活性化では、県内企業の海外進出支援や観光客誘致を促進するとともに、コロナ禍で貸し付けたゼロゼロ融資の償還開始を見据えて、中小企業向けの貸付金を大幅に拡充しました。また、防災・減災対策では、能登半島地震を受けて木造住宅耐震診断や改修への助成を強化しています。

特別会計は2,513億6,900万円（±5億4,900万円）、企業会計は694億1,000万円（+4億3,

【表1】令和6年度 県当初予算の会計別規模

(単位:百万円、▲は減)

会計別	予算額	前年度同期比
一般会計	728,300	21,370
災害救助基金	2	▲3
国民健康保険事業	134,677	▲3,567
母子父子寡婦福祉資金	515	▲1
中小企業振興資金	5	0
農業改良資金	7	1
国営農業水利事業負担金	330	▲55
県有林経営事業	218	▲32
林業改善資金	230	34
沿岸漁業改善資金	51	増減なし
公共用地整備事業	2,417	570
港湾施設整備事業	15	増減なし
用品調達	306	増減なし
自動車集中管理	15	0
公債管理	112,449	3,628
奨学資金	132	▲25
計	251,369	549
特別会計		
電気事業	3,167	▲1,067
工業用水道事業	1,524	▲146
病院事業	64,718	1,648
計	69,410	435
企業会計		
合計	1,049,079	22,355

※端数四捨五入のため合計が合わない場合があります。

500万円)で、県全体の予算規模は、1兆490億7,900万円になっています。主な事項は、次のとおりです。

### (1) 人口減少対策

《R5:39億円》

↓R6:40億円(±1億円)》

将来的な人口構造の若返りを目指す「えひめ人口減少対策重点戦略」のもとオール愛媛体制で自然減・社会減の双方に歯止めをかける対策を強化します。

### ・人口減少対策意識啓発事業

2,631万円

意識啓発強化期間を設け集中的に広報を行うほか、企業の経営層や若手従業員向けセミナーを開催。

### ・えひめ人口減少対策総合交付金

15億3,174万円

メニューを拡充するほか、若年世帯の育児用品・省エネ家電の購入補助、奨学金返済支援事業の対象年齢を29歳から35歳までに緩和。

## ・ひめボス宣言事業所魅力化支援

1億1,335万円

女性活躍、仕事と育児の両立支援  
双方に取り組む事業所（従業員20～300人）を認証し、奨励金等の優遇措置をすることで企業の取組を後押しする。

## ・AI活用型移住相談機能強化

1,571万円

対話型AIチャットボットを導入し、相談窓口への誘導促進を図る。

## (2) DXの推進

《R5：77億円

↓R6：78億円(↑1億円)》

様々な分野で積極的にデジタル施策を展開し、行政・暮らし・産業のDXを進めます。

・デジタル人材育成教育課程等設置支援  
2億1,824万円

愛媛県が目指すデジタル人材の育成に向けた教育課程等を新設する県内大学に対し、新設に係る初期費用を支援。

## ・トライアングルエヒメ推進事業

10億6,490万円

デジタル関連企業と行政が連携し、地域課題解決に向けたデジタル技術の

現場実装推進。

## ・樹園地農業スマート化促進

960万円

県営事業で造成した樹園地（真穴地区）で、ICTを融合したスプリンクラー施設をモデル的に開発。

## (3) 防災・減災対策

《R5：155億円

↓R6：127億円(▲28億円)》

国補正予算で措置された国土強靱化5か年加速化対策に対応した12月補正予算（294億円）と合わせた「16か月予算」として一体的に編成しています。

・住宅耐震化支援 1億2,798万円

前年度より倍増。改修・設計300戸、診断1000件を見込む。

・特定老朽危険空家等除却促進事業  
9,420万円

市町が行う除去事業を補助。前年度より1,580万円増。

・地震被害想定調査 9,348万円

国は南海トラフ巨大地震の被害想定を見直している。それを踏まえて、県地震被害想定の見直しに着手。調査は2年間。県と市町が新たな地震対策を立案する際、共通の基礎資料となる。

## (4) 地域経済の活性化

経済交流ミッションが訪問したインドをはじめとする国々と、県内企業のビジネス展開を支援するほか、観光客誘致に力を入れています。また、中小企業の資金繰り支援に万全を期すための貸付金を大幅に増額しています。

## ・松山空港国際線活性化事業

7億6,465万円

インバウンド・ゴルフ場視察ツアーなど県内観光コンテンツPPRなどアウトバウンド・パスポート取得支援、修学旅行経費の助成など

## ・かんきつ流通施設強化支援

17億936万円

事業実施主体…JA西宇和。集出荷施設を再編統合しAI選果機を導入。

導入。

## ・中小企業振興資金貸付金

1,089億8,000万円

実質無利子・無担保融資（ゼロゼロ融資）の返済本格化などに備え340億2,000万円増。

## ・えひめ伝統工芸活性化支援事業

1,637万円

砥部焼の価値を高めるモデル窯元を支援。また、販売力強化のためのワークショップ開催や、産地の底上げに向けた体制整備に取り組む。



令和3年頃のJAにしゅうわ撰果場



産業技術センターでは、原料配合条件の研究など砥部焼の生産性効率化に向けた研究を進めます。

(5) その他

・県立図書館の耐震改修

昭和50年建築の現図書館の耐震改修工事に着手する。工期は令和8年度まで。7年2月から8年5月まで仮説図書館をアイテムえひめに開設。改修工事後の再オープンは8年8月を予定している。

耐震改修と機能向上（トイレの洋式化や空調設備改修）

3,240万円

仮説図書館移転・運営

6,340万円

・自転車国際会議「Velo-city（ベロシティ）」（注1）誘致

1,080万円

令和9年ベロシティ開催を目指して、6年6月ベルギーで開催される会議に出展し、9月までに欧州サイクリスト連盟に応募する。開催決定は12月の予定。

（注1）Velo-city：欧州サイクリスト連盟主催の世界最大級の自転車国際会議。自転車政策決定者など（1千〜1千5百人規模）が集い、観光、安全利用、都市計画など様々な議題を議論するほか、自転車パレード等を実施。

・「とべもり」関連予算

①とべもり+（プラス）ゼロカーボン夢プロジェクト推進事業

【表2】令和6年度 とべもり+（プラス）関連事業

とべもり+（プラス）：えひめこどもの城、とべ動物園、県総合運動公園に「えひめ森林公園」を加えたエリア

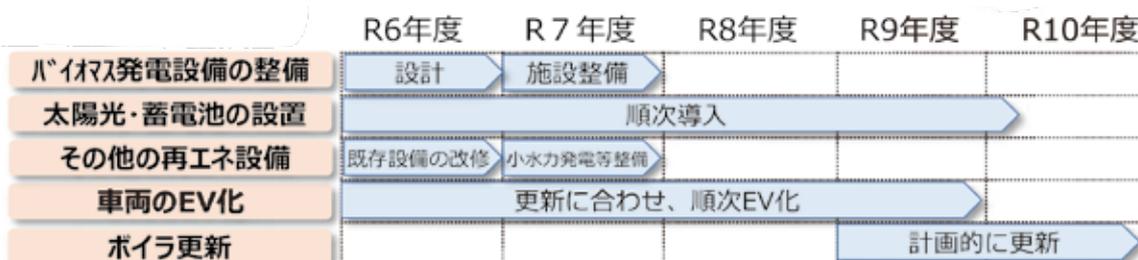
とべもり+（プラス）ゼロカーボン夢プロジェクト推進事業 バイオマス発電・太陽光発電設備の導入や、エリア内「えひめエコ・ハウス」のZEB化(注2)改修等を実施	7,008万円
とべもり+（プラス）エリア交流拡大推進事業 スマホアプリの機能強化や県内観光地からの移動手段確保によりエリア内周遊を円滑化するほか、連携イベント等を通じ周遊を活性化	3,096万円

(注2) ZEB:消費する年間のエネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物

えひめこどもの城	
愛顔創出事業 ・無料トランポリンほか周辺遊具のリニューアル ・7~10年度に整備する大型遊具の企画・設計	2億 675万円
愛顔波及事業 ・AR(拡張現実)を活用した広報や、ジップラインのテレビ・映画館でのプロモーション ・とべもり+（プラス）での周遊促進イベント等に取り組みます。	3,471万円
とべ動物園	
とべ動物園施設整備 ・間伐材を利用して藤棚を整備 ・オランウータンの導入に向けて、既存類人猿舎改修検討	200万円 800万円
とべ動物園展示動物等購入費 ・動物の購入や、動物の健康管理強化等に必要な医療器具の整備	8,152万円
とべ動物園魅力向上戦略推進事業 ・《とべZOOイルミネーション》など定番イベント開催や、Webによる情報発信	1,907万円
えひめ森林公園	
とべもり+ジャンピングイベントや森林公園体験イベントの開催	1.339万円

(端数四捨五入)

とべもり+（プラス）ゼロカーボン夢プロジェクト推進事業計画(案)



7,008万円

バイオマス発電・太陽光発電設備の導入や、エリア内「えひめエコ・ハウス」のZEB化改修等を実施し、エリアをゼロカーボン先進地域とする。

②とべもり+（プラス） エリア交流 拡大推進事業 3,096万円

スマホアプリの機能強化や県内観光地からの移動手段確保によりエリア内周遊を円滑化するほか、連携イベント等を通じ周遊を活性化する。

③オランウータンの導入に向けて、既存類人猿舎改修検討

800万円



改修が検討されている類人猿舎

## 2 補正予算

令和5年度2月補正予算では、一般会計が国の内示減などに伴い140億8,091万円を減額し、累計8,019億4,257万円。特別会計が13億3,457万円の増額で、累計2,522億3,507万円となりました。

なお、一般会計は県立学校教育環境整備基金など6基金への積み増しなど245億3,462万円を追加計上する一方で、国の内示額減により執行できなかった事業や、公債費利子の不用額など386億1,553万円を減額しています。

### (1) 一般会計（増額分）

デジタル化対応教育設備整備 2億8,000万円

普通科設置の県立高校等を対象に国のDXハイスクールの指定を受け、理数分野の選択に向けたICT機器等を整備。

【表3】令和5年度 2月補正予算の概要（一般会計）

一般会計の計	▲140億 8,091 万円
増額分	245億 3,462 万円
デジタル化対応教育設備整備	2億 8,000 万円
公立学校情報機器整備基金積立金	8億 3,627 万円
介護・障がい福祉職員の処遇改善	5億 7,717 万円
高齢者・障がい福祉施設の防災・減災対策	2億 1,457 万円
直轄事業負担金（道路・ダム等）	17億 9,857 万円
税関係交付金等	11億 985 万円
職員退職手当基金積立金	18億円
県立学校教育環境整備基金など6基金への積み増し	169億円
	など
減額分 《国内示の減、公債費利子の減等による不用額》	▲386億 1,553万円

（端数四捨五入 ▲は減）

【表4】令和5年度 2月補正予算（特別会計）

特別会計の計	13億 3,457 万円
(1) 増額分	21億 2,931 万円
国民健康保険事業	19億 6,556 万円
県有林経営事業	6,592 万円
	など
(2) 減額分	▲7億 9,479 万円
国営農業水利事業負担金	▲8,059 万円
県有林経営事業	▲1,514 万円
公債管理特会	▲6億 9,901 万円

（端数四捨五入 ▲は減）

・公立学校情報機器整備基金積立金

8億3,627万円

児童生徒1人1台端末や入出力支援装置の更新整備を計画的に進めるため、国の補助金を原資とした基金を創設し、その資金を積立する。

## (2) 特別会計（増額分）

・国民健康保険事業

19億6,556万円

国民健康保険事業に係る決算剰余金の積立てなど。

・県有林経営事業 6,592万円

一般会計からの貸付金の返済。

## 3 条例

主なものは次のとおりです。

・個人番号の利用に関する条例と住民基本台帳法施行条例を改正し、次の県事務で個人番号と本人確認情報を利用できるようにします。

・B型及びC型肝炎ウイルスによる肝がん等の治療のため必要な医療費の助成事務

・特定疾患の治療のため必要な医療費の助成事務

・先天性血液凝固因子障害等の治療のため必要な医療費の助成事務

・公立学校情報機器整備基金条例（新規）

国の補助金を原資として、5年度に8億3627万円を積み立てます。6年度から10年度まで積立金を活用、11年3月末で基金は廃止。

・学校職員定数条例を改正し、県立学校（特別支援学校含む）と、市町立学校の職員合わせて20人増員

## 4 人事

任期満了を迎える高橋正浩（まえばし せいこう）代表監査委員に代わって高石淳（じゅん）氏、議員選出監査委員の大西誠議員に代わって大石豪（新居浜市選挙区・3期）議員を選任しました。

## 5 意見書

JR四国のローカル線の維持・確保を求める意見書と、防災・減災、国土強靱化対策の着実な推進を求める意見書を可決。リベラル愛媛などから提出された政治の信頼を取り戻すことを求める意見書を否決しました。

## 6 その他

・包括外部監査（注3）契約の締結（1,160万円）

・県立病院の診療費未払金（138人…1,314万円）など回収不能となった債権の放棄

・土地改良事業や土木建設事業等の負担額の変更

・自動車事故などの賠償額の決定について承認（1件）及び報告（2件）

・国道197号大根第二橋（大洲市）と国道378号高野川橋（伊予市）

の工事請負契約の締結

・県庁第二別館新築工事の請負額変更。工事現場の土壌から環境基準を超える六価クロムが検出されたことに伴い、土壌処理の工事を追加します。変更後の請負額は、2億2,568万円（税込）増額の69億598万円です。

（注3）包括外部監査…弁護士や公認会計士など外部の監査人と契約を結んで予算の使い方について監査を受けること。地方自治法で、都道府県、政令指定都市、中核市に義務付けられています。

議会最終日には高山議長、福羅副議長の辞任に伴う正・副議長選挙があり、新議長に三宅浩正議員（自由民主党、松山市・上浮穴郡選挙区、当選5回）、副議長に松尾和久議員（自由民主党、松山市・上浮穴郡選挙区、当選4回）が選ばれました。

また、常任委員会と議会運営委員会編成変更も行



議事堂議長室で、三宅新議長（右）と

われしました。私は新しい常任委員会では、総務企画委員会に籍を置きます。なお、引き続き県の監査委員を務めます。

▼一昨年県教育委員は、10か年の「県立高校振興計画」の内、前期計画を発表しました。

同計画では、現在県内にある55校を令和9年度までに45校に統合・再編します。砥部町岩谷口にある松山南高砥部分校は、伊予高に統合される計画案でしたが、砥部分校存続の会と砥部町が提案した、民間会社が校内にサテライトオフィスを開設して



2月14日砥部分校で公開されたゲームクリエイションコースの模擬授業

授業を行う「ゲームクリエイションコース(仮称)」新設などの存続計画が評価されて、統合対象高の中で唯一存続が決まりました▼町では全国から生徒を募集することを想定し、寮の建設を計画。建設費8億円を盛り込んだ令和6年度当初予算が可決されています。ただ、7年度からは2クラス80人の生徒を募集する計画です。国全体で子どもが減っていく中、かなり高いハードルに思えますが、鍵は「学校の魅力」と「地域の魅力」です。新派の名優井上正夫を輩出し、歌人の吉井勇が「陶物に旅の歌など書きつくる 砥部風流のおもしろきかな」と詠んだ「焼き物の里」砥部。分校支援と同時に改めて、地域を見直す機会としたいものです。これからが大切です。

▼2月13日伊予地区農業改良普及事業・生活研究フォーラムが開催され、会場の松前町総合文化センターに関係者約100人が集まりました。私も久々に参加。貴重な研究発表を聞かせてもらいました。なかでも伊予農業高校希少植物群保全プロジェクトチームが発表した「塩屋海岸に漂着する肥料殻について」は、農業と自然環境について考える上で、示唆に富むものでした。海の世界そして



「塩屋海岸に漂着する肥料殻」について発表する、伊予農業高校の希少植物群保全プロジェクトチーム

生態系に影響を与えるマイクロプラスチック。その原因の一つが、「粒状肥料」のプラスチック被膜です。肥料を扱う関係者にプラスチック被膜の問題を聞いてみましたが、認識はあるけれども解決はまだ先のように、歯切れの悪い答えでした▼おりしも、国内で複数の人から採取された血液に「ナノプラスチック」と呼ばれる直径千分の1ミリ以下の極めて小さなプラスチック粒子が含まれていたとの報道がありました。人の血液からナノプラスチックが検出されたのは国内では初めてのことと。検出量はわずかで、直ちに影響の出るレベルではないとのことですが、やはり心配です。

が、やはり心配です。

▼昨年7月から県下全域で運用が始まった#71119(シャープ・ナナ・イチ・イチ・キュウ)。「すぐに病院に行った方がよいか」「救急車を呼ぶべきか」と悩んだり、ためらう時の相談電話です。医師や看護師、トレーニングを受けた相談員が、電話口で症状などを聞き取りアドバイスします▼2月県議会の公明党笹岡議員の質問に、菅保健福祉部長は「想定を超える月平均1,500件の利用がある。対応内容としては、翌日以降の受診を助言したものが40%あり、救急車や救急機関の負担軽減に一定の役割を果たしている。また、夜間や休日の相談の割合が8割を超えており、医療機関に直接相談できない時間帯における相談窓口としての機能も果たしている」と答弁。高く評価しています▼一方、救急の現場では、コロナが5類に移行してから救急車の出動は増加。隊員からは「効果はまだ実感できない」と言った声があります。#71119が救急現場の状況を解決できるのか。評価にはもう少し時間が必要なのようです。なお、子どもの相談電話#8000(シャープ・ハッセン)は、平成16年に始まり既に全国で実施されています。ご存知でしたか。

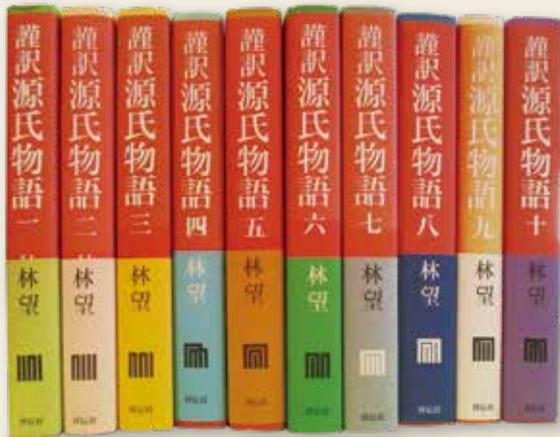
# 謹訳 源氏物語(全十巻)

著者：林望 出版：祥伝社

私の本棚

晴走雨読  
せいそううどく

読み易くなっています。全巻読破するには最適です。私の乏しい知識の中で源氏物語をまとめると、次のようになります。物語は五十四帖から成り、各帖がそれぞれで完結。その集合体として一つの小説になっています。その五十四帖は、大きく三部に分けて考えるのが定説です。第一部は桐壺から第三十三帖藤裏葉まで。主人公光源氏の誕生から、栄華を求めながら



千年を超える時間の中、人々に読み継がれ、語り継がれてきた源氏物語。現代語訳も、明治から大正にかけての与謝野晶子の「新訳源氏物語」に始まり、昭和に入ると同じく晶子の「新訳」と谷崎潤一郎の三つの訳があります。戦後の現代語訳は円地文子や田辺聖子、瀬戸内寂聴と、昭和を代表する女性作家が執筆しています。2000年代に入っても、大塚ひかり、角田光代、そしてここに紹介する林望の「謹訳」と次々と出版されています。源氏物語は、誰もが挑戦し途中で挫折した記憶があると思います。この「謹訳」、分厚く見ただけで気後れしますが、開いてみると過剰な敬語がなく主語がはつきりしているので、わりと読み易くなっています。全巻読破するには最適です。

女性遍歴をする源氏の姿が描かれています。謹訳版では、第5巻までです。第二部は、若菜上から第四十一帖までで、光源氏の深まる苦悩や老いが描かれています。謹訳版では、第6巻、7巻です。それ以下が第三部です。匂兵部卿から夢浮橋まで。光源氏の死後、その子や孫が繰り広げるドラマを描いています。物語は、源氏が生れてからその死後も続き、七、八十年にわたる長いものです。その間に500人を超える人物が登場します。作者は紫式部とされていますが、色々な人が手を加えているとも言われています。今年のNHK大河ドラマの舞台は、珍しく平安時代。主人公は、紫式部と藤原道長です。式部は、道長の娘で一条帝の中宮(皇后)である彰子に仕えていますので、道長という権力者が、源氏物語に影響していることは想像できます。なお、同時代の清少納言は一条帝のもう一人の皇后藤原定子の女官です。大河ドラマの中では、紫式部は「まひろ」、清少納言は「ききょう」として登場しています。これを機会に「源氏物語」や「枕草子」を開いてみてはいかがでしょうか。



愛媛県議会議員

松下 行吉 まつした ゆきよし

〒791-2141 愛媛県伊予郡砥部町岩谷口 135  
TEL 089-969-3605 FAX 089-969-3606  
Email : matsushita31@iyo.ne.jp

<http://www.iyo.ne.jp/matsushita31/>



このレポートは環境に配慮した FSC®森林認証紙を使用しています